

シントウ定植 高まる期待

四国電力などが出資する農業法人A itosa（アイトサ）が9月下旬、南国市の1号棟栽培ハウス約37アにシントウ3400本を定植した。同法人は昨年11月に発足。スマート農業などを活用しながら、シントウの養液栽培に新規参入する。

四国電力など出資
農業法人アイトサ



「収穫の喜び全員で」

県やJA高知県の職員らの協力で9月上旬に仮定植していた苗を定植。点滴かん水用のノズルの差し替えや誘引の移し替えなども行った。

定植後の栽培管理は、県農業担い手センターで研修をした2人と、パート従業員15人で行う。パート従業員のほとんどは、農業未経験者だが、同法人ファームマネージャー（農場長）の菊池功一さん（45）は「単なる作業員としてではなく、一つ一つの作業の意味を順序立てて説明するよう心掛けていく」と人材の育成にも力を注ぐ。

順調にいけば、1カ月後には収穫できる見込みだ。「収穫を迎える喜びを従業員全員で分かち合いたい」と菊池さん。来年7月までに収量30トを目指す。

（高知・土長地区）

従業員と確認しながらシントウを定植する菊池さん（右）（高知県南国市で）